

特別企画：四国の食品卸売業者の業績実態調査

2015 年度の総売上高は 6971 億 9700 万円、前年度比 3.7%増

～利益額合計は前年度比 22.2%増で、2 年連続で増加～

はじめに

食品卸売業者は、産地やメーカーと小売店との間をつなぎ商品を供給してきた。ただ、少子高齢化や人口減が進むなかで、四国の食品市場は飽和状態にある。また、業務用食材のインターネット通販業者が台頭するなど業者間の競争も一層激しくなっている。

そこで、帝国データバンク高松支店では、四国に本社を置く食品卸売業者の状況を探るため、2013 年度から 2015 年度まで 3 年度の売上高、利益（当期純利益）、従業員の推移を調査した。

今回の調査対象としたのは、四国に本社を置く食品卸売業を主業とする企業のなかで 2013 年度から 2015 年度の 3 年度連続で判明している 528 社。

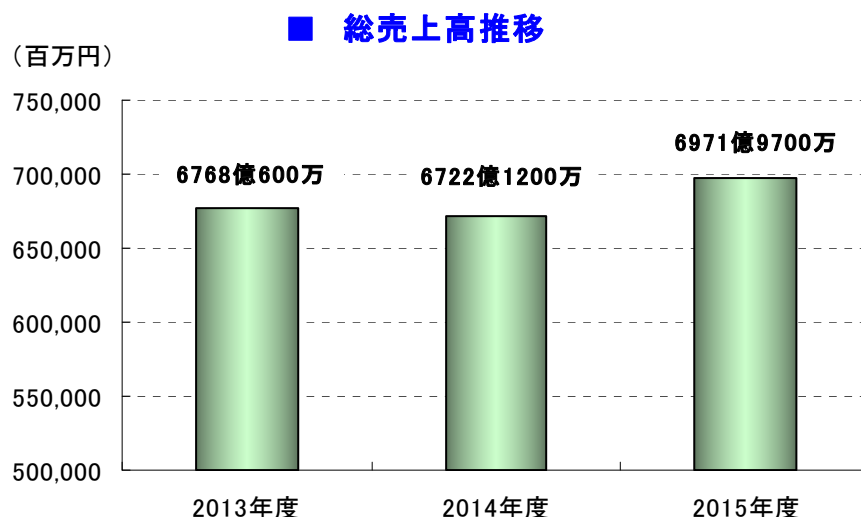
調査結果（要旨）

1. 四国に本社を置く食品卸売業者 528 社の総売上高は 6971 億 9700 万円で、前年度比 3.7%増加。「増収」となった企業数は 145 社（27.5%）で、「減収」企業数の 180 社（34.1%）を下回った。
2. 上記 528 社のうち、3 年度連続で利益額が判明している 189 社の利益額合計は 25 億 8500 万円。前年度比 22.2%増で 2 年連続増加した。2015 年度は 107 社（56.6%）が「増益」となった。
3. 528 社のうち、従業員数（12 月末データ）が判明している 507 社の従業員総数（正社員のみ、役員・パートなどを除く）は 5906 人で前年比と比べて 424 人（7.7%）増加した。

1. 総売上高

分析対象となる 528 社の 2015 年度の総売上高は 6971 億 9700 万円で、2014 年度と比べて 3.7% 増加した。2014 年度の総売上高は 6722 億 1200 万円で、2013 年度（6768 億 600 万円）と比べて 0.7% 減とほぼ横ばいとなった。

2015 年度は、大手スーパーやコンビニなどに加えて、近年食品の取り扱いを増やしているドラッグストアからの受注が好調で増収だった企業が多かった。



2. 売上動向

2015 年度の 528 社の個別の売上高の動向は、528 社中 145 社（構成比 27.5%）が「増収」となり、「減収」となった企業数 180 社（同 34.1%）を下回った。

2014 年度と比較すると、「増収」企業数は同じであったが、「減収」企業数は 49 社（－9.3 ポイント）減少していた。

2015 年度が増収となったのは、「減収」企業数の減少と「増収」企業の増収幅の拡大によるものであった。

2 年連続で「増収」だった企業数は 66 社（構成比 12.5%）で、「減収」だった企業数 104 社（19.7%）を下回っていた。

■ 増減収状況

	2014年度		2015年度	
	社数	構成比(%)	社数	構成比(%)
増収	145	27.5	145	27.5
うち2期連続増収			66	12.5
減収	229	43.4	180	34.1
うち2期連続減収			104	19.7
横ばい	154	29.2	203	38.4
合計	528	100.0	528	100.0

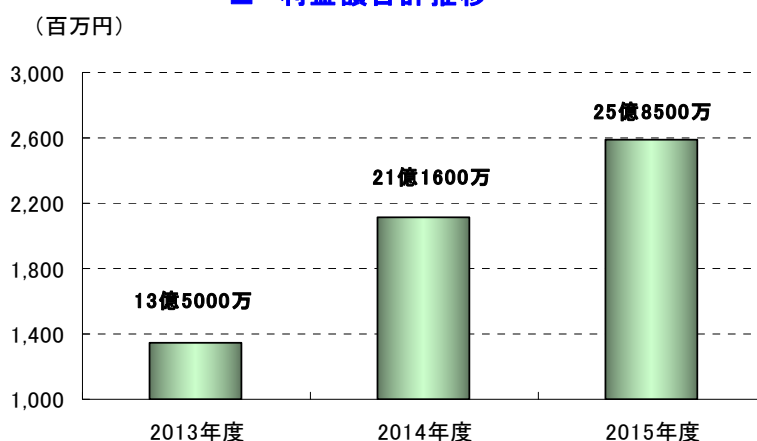
3. 収益動向

528 社のうち、3 年度連続して利益額が判明している 189 社の、2015 年度の利益額合計は 25 億 8500 万円と、2014 年度と比べると 22.2%増加していた。2014 年度の利益額合計は 21 億 1600 万円と 2013 年度（13 億 5000 万円）と比べると 56.7%増加していた。

2015 年度の個別の収益動向は、107 社（56.6%）と過半数の企業が「増益」となり、「減益」企業数の 68 社を上回っていた。

2014 年度と比較すると「増益」企業は 25 社（+13.2 ポイント）増加していた。一方、「減益」企業は 24 社（-12.7 ポイント）減少していた。2 年連続で「増益」だった企業は 37 社（19.6%）で、「減益」企業数 24 社（12.7%）を上回った。

■ 利益額合計推移



円高の影響で仕入価格が上昇した 2014 年度は人件費など経費削減を進め利益を確保したところが多かったが、2015 年は従業員を増やしながら利益を伸ばしている企業も多かった。

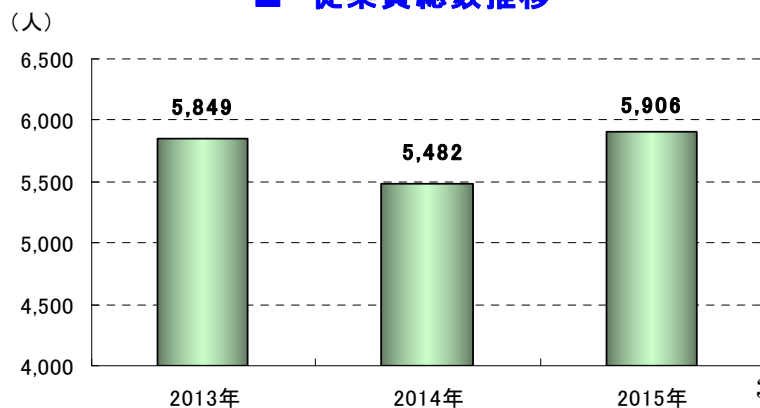
■ 増減益状況

	2014年度		2015年度	
	社数	構成比(%)	社数	構成比(%)
増益	82	43.4	107	56.6
うち2期連続増益			37	19.6
減益	92	48.7	68	36.0
うち2期連続減益			24	12.7
横ばい	15	7.9	14	7.4
合計	189	100.0	189	100.0

4. 従業員総数

528 社のうち、3 年連続で従業員数（12 月末データ）が比較可能な 507 社の 2015 年の従業員総数（正社員のみ、役員・パートなどを除く）は 5,906 人と 2014 年と比べて 424 人（7.7%）増加していた。2014 年の従業員総数は 5,482 人で 2013 年（5,849 人）と比べると 6.3%減少していた。

■ 従業員総数推移



5. 売上高上位 10 社

1 位になった**旭食品**は、食品商社として全国で大手となるトモシアグループの中核会社。加工食品や冷凍食品のほか幅広い食材を取り扱っており、西日本を中心に関東地方までを営業エリアとしている。

2016 年 3 月期は、出店に積極的な大手ドラッグストアへの販売増や仕入価格上昇分を販売に転嫁したことから増収となった。

2 位となった**四国シジシー**は、加盟スーパーの食料品などの共同仕入れを全国で展開する C G C グループの四国地区の統括企業で、14 の四国の中堅、中小スーパーに加工食品などを提供している。

2016 年 2 月期は、期中に加盟者数が 1 件増加したことや、地元の生鮮食品の取り扱いを増やすなどしたことから売上高は微増となった。

3 位となった**味のちぬや**は、調理冷凍食品の製造販売する味のちぬやグループの中核会社。関係会社が製造する製品を販売しており、コロッケを主力商品として、200 種以上の商品を取り扱っている。全国の食品問屋を主要得意先としている。

2016 年 3 月期は、関係会社が工場の生産能力を高めたことや、大手コンビニエンスチェーンからのコロッケなどの受注が増えたことから増収となった。

売上高上位 10 社のうち 9 社が増収となっていた。

■ 四国の食品卸売業者			
順位	社名	本社所在地	最近期売上高
1	旭食品 株式会社	高知県南国市	390423
2	株式会社 四国シジシー	高知県南国市	24853
3	株式会社 味のちぬや	香川県三豊市	24272
4	さぬき丸一製麺 株式会社	香川県坂出市	9705
5	さとの雪食品 株式会社	徳島県鳴門市	9511
6	株式会社 秋田商店	愛媛県伊予郡	7894
7	サンヨー食品 株式会社	愛媛県四国中央市	7100
8	鹿子酒類卸 株式会社	徳島県徳島市	6857
9	株式会社 松浦唐立軒	香川県高松市	6280
10	カトー菓子 株式会社	愛媛県松山市	6041

まとめ

今回の調査で、四国に本社を置く食品卸売業者の総売上高が増加していることがわかった。また、収益面も2年連続で利益額合計が増加、2014年度は従業員を減らしながら増益となっていたが、2015年度は従業員を増やしながら増益となっていたことも判明した。

企業が雇用を増やししながら利益を確保していることは、地域経済にとっても望ましいことである。為替が不安定となり食品の原材料価格が上昇する懸念もあるが、このような望ましい状況を業界として維持されていくことに期待したい。

【内容に関する問い合わせ先】

株式会社帝国データバンク 高松支店 担当：伊藤

TEL：082-247-5930 FAX：082-249-1242

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および無断引用を固く禁じます。